

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月13日
【四半期会計期間】	第89期第3四半期(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)
【会社名】	アサヒグループホールディングス株式会社
【英訳名】	Asahi Group Holdings, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 泉谷直木
【本店の所在の場所】	東京都墨田区吾妻橋一丁目23番1号
【電話番号】	東京03(5608)5116
【事務連絡者氏名】	財務部門ゼネラルマネジャー 福田行孝
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区吾妻橋一丁目23番1号
【電話番号】	東京03(5608)5116
【事務連絡者氏名】	財務部門ゼネラルマネジャー 福田行孝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第88期 第3四半期 連結累計期間	第89期 第3四半期 連結累計期間	第88期
会計期間		自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(百万円)	1,066,116	1,139,190	1,462,736
経常利益	(百万円)	82,396	71,080	110,909
四半期(当期)純利益	(百万円)	35,942	45,586	55,093
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	15,798	57,870	39,874
純資産額	(百万円)	619,582	689,858	643,798
総資産額	(百万円)	1,450,554	1,560,639	1,529,907
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	77.22	97.86	118.36
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	77.17	97.80	118.28
自己資本比率	(%)	42.6	44.0	41.9

回次		第88期 第3四半期 連結会計期間	第89期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	42.26	42.83

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第88期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については、以下のとおりであります。

（国際事業）

（1）新規

第1四半期連結会計期間から、「Mountain H20 Pty Ltd」につきましては株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

また、「康師傅飲品控股有限公司」の関係会社4社につきましては新たに設立したため、「康師傅飲品控股有限公司」の関係会社23社及び「Mountain H20 Pty Ltd」の関係会社1社につきましては持分を取得したため、「上海嘉柚投資管理有限公司」につきましては重要性が増したため、持分法適用関連会社の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間から、「康師傅飲品控股有限公司」の関係会社3社につきましては新たに設立したため、持分法適用関連会社の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間から、「PT Asahi Indofood Beverage Makmur」につきましては新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

また、「康師傅飲品控股有限公司」の関係会社4社及び「PT Indofood Asahi Sukses Beverage」につきましては新たに設立したため、持分法適用関連会社の範囲に含めております。

（2）除外

第1四半期連結会計期間から、「康師傅飲品控股有限公司」の関係会社1社につきましては清算したため、持分法適用関連会社の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに認識した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績

当第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日～9月30日）における世界経済は、ユーロ圏の債務問題に加え、その影響による米国や中国などの景気の減速感が強まり、引き続き厳しい状況が続きました。

わが国経済におきましては、復興需要をはじめとする国内需要が下支えしたものの、先行き不透明な海外景気に対する懸念から輸出が低迷したことなどにより、景気は横ばいの状況となりました。

こうした状況のなかアサヒグループは、「中期経営計画2012」の最終年度である本年度において、各事業における主力商品のブランド強化に経営資源を集中するとともに、引き続きコスト競争力を強化することによりグループ全体の収益性の向上に取り組みました。

その結果、アサヒグループの当第3四半期連結累計期間の売上高は1兆1,391億9千万円（前年同期比6.9%増）となりました。一方、営業利益は、前年度に震災関連費用を特別損失に振り替えた反動や積極的なマーケティング投資による広告販促費の増加などにより、前年同期比11.9%減の676億8千万円となりました。経常利益は710億8千万円（前年同期比13.7%減）、四半期純利益は455億8千6百万円（前年同期比26.8%増）となりました。

当四半期のセグメントごとの概況

（単位：百万円）

	売上高	前年同期増減	前年同期比	営業利益	前年同期増減	前年同期比
酒類	670,784	874	0.1%	76,622	6,491	9.3%
飲料	264,933	18,457	7.5%	4,898	6,429	56.8%
食品	73,470	2,725	3.9%	1,503	859	36.4%
国際	110,358	48,902	79.6%	6,200	2,411	
その他	19,643	2,115	12.1%	72	412	85.1%
調整額				9,215	5,481	
合計	1,139,190	73,074	6.9%	67,680	9,103	11.9%

酒類事業

酒類事業につきましては、「アサヒビール株式会社」がお客様の求める価値の創出・提案により、総需要の拡大に努めるとともに、収益構造の改革に取り組みました。

(ビール類)

ビールにおいては、基幹ブランドである『アサヒスーパードライ』が業務用・家庭用の両市場で『アサヒスーパードライ エクストラコールド』を引き続き拡大展開するとともに、9月に『アサヒスーパードライ - ドライブラック -』の業務用樽生ビールを発売するなど、ブランド力の育成・強化に注力した結果、ビールカテゴリー合計では前年同期を上回る販売数量となりました。

発泡酒においては、健康意識の高まりを背景に“糖質ゼロ”のパイオニア『アサヒスタイルフリー』が、消費者キャンペーンや広告展開などを積極的に実施いたしました。

新ジャンルにおいては、主力ブランドである『クリアアサヒ』が、積極的な広告展開や“ロンドンオリンピック日本代表応援”デザイン缶を発売するなど、ブランド力の強化を図りました。また、オリンピック開催時期に合わせた『アサヒジャパンゴールド』などの期間限定商品を発売し、お客様の多様化するニーズに対応した商品を提案いたしました。

海外の『アサヒ』ブランド商品においては、アジア・オセアニア地域を中心に現地パートナーとの提携強化により、各市場における『アサヒスーパードライ』のブランド力を高める取組みを推進いたしました。その結果、韓国、中国、香港、タイの販売数量が前年同期を大きく上回るなど、全体の売上も好調に推移いたしました。

(焼酎・低アルコール飲料・洋酒・ワイン・その他酒類等)

焼酎においては、『麦焼酎かのか』のリニューアルや9月の『かのか 焼酎ハイボール』の発売などにより、基幹ブランドである『かのか』のブランド価値の向上を図りました。業務用商品についても希少品種“暁紫(あけむらさき)”を使用した『本格芋焼酎 薩摩こく紫』を中心に、積極的な拡販活動に取り組みました。

低アルコール飲料においては、基幹ブランドである『アサヒSlatt(すらっと)』『アサヒカクテルパートナーフワリッチ』のリニューアルに加え、『アサヒスパークス』の新フレーバーを発売するなど、ブランドの強化を行いました。また、『アサヒチューハイ果実の瞬間』の「贅沢みかんテイスト」を9月にリニューアルし、新規需要の拡大を図りました。

洋酒においては、主力商品である『ブラックニッカ クリア』が、広告展開や消費者キャンペーンを展開するなど、拡販に努めました。また、『竹鶴』ブランドでは、3月に『ニッカ 竹鶴17年ピュアモルト』が「WORLD WHISKIES AWARDS 2012」で“ワールド・ベスト・ブレンデッドモルト・ウイスキー”を受賞するなど高い評価を得ており、業務用市場での更なる取扱いの拡大に取り組むとともに、家庭用市場でも『ニッカ 竹鶴12年ピュアモルト』瓶500mlを発売するなど、ブランドの強化を図りました。

ワインにおいては、国産ワインでは、気軽に楽しめる味わいとペットボトルの利便性により新規需要を開拓した『サントネージュ リラ』のペットボトル320mlを9月に発売し、更なる商品認知の向上に取り組みました。輸入ワインでは、低価格・高品質のチリワイン『サンタ・ヘレナ・アルパカ』やスペインワイン『ヴィニャ・アルバリ』など、多彩な商品のラインアップを活かした拡販に努めました。

その他酒類等においては、2月に発売したビールテイスト清涼飲料『アサヒドライゼロ』が引き続き好調に推移いたしました。また、9月にはカクテルテイスト清涼飲料『アサヒゼロカク』を発売するなど、ノンアルコール飲料市場における存在感の拡大に取り組みました。

英国のウイスキー専門誌「ウイスキーマガジン」が主催する、ウイスキーのみを対象とした国際コンテストです。

収益構造改革面では、8月末に西宮工場から吹田工場への機能統合が完了し、関西地区の最適生産物流体

制を構築いたしました。

以上の結果、酒類事業につきましては、ビールテイスト清涼飲料の販売数量が増加したことなどにより、売上高は前年同期比0.1%増の6,707億8千4百万円となりました。営業利益は、減価償却費などの固定費の効率化などにより、前年同期比9.3%増の766億2千2百万円となりました。

飲料事業

飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」が「成長戦略」と「構造改革」を基本戦略として、飛躍的な成長基盤の構築に向けた取組みを強化いたしました。

成長戦略の根幹をなす商品戦略では、基幹ブランドである『三ツ矢』『ワンダ』『アサヒ十六茶』に、6月より新たなブランドとして展開している『アサヒおいしい水』を加え、引き続きブランドの強化・育成を積極的に進めました。また、『バヤリース』『ウィルキンソン』などのロングセラーブランドの活性化に取り組むとともに、5月に発売したエナジードリンク『モンスターエナジー』ブランドが好調に推移したことなどにより、販売数量は市場を大きく上回る成長となりました。

「株式会社エルピー」は、継続的な商品提案を行った乳飲料カテゴリーや果汁飲料カテゴリーが好調に推移いたしました。また、エナジードリンク『メガエナジー』などの個性的な商品や新たに提案したカップ商品の積極的な拡販に取り組みました。

以上の結果、飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」が大幅に売上を伸ばしたことにより、売上高は前年同期比7.5%増の2,649億3千3百万円となりましたが、営業利益は、主に積極的な販促投資などにより、前年同期に比べ64億2千9百万円悪化し、48億9千8百万円となりました。

食品事業

食品事業につきましては、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」が既存商品の更なる強化や新商品の開発、市場の開拓などを通じて売上の拡大を図りました。

主力商品のミント系錠菓『ミンティア』、バランス栄養食品『バランスアップ』、栄養調整食品『1本満足バー』、サプリメント『ディアナチュラ』、ダイエットサポート食品『スリムアップスリム』における新商品の発売とリニューアルを行うとともに、積極的な広告展開を実施したことにより、同社全体としても堅調に推移いたしました。

「和光堂株式会社」では、「新たなステージへの挑戦」を経営方針として、ベビーフード・育児用粉乳の市場における存在感の向上や業務用・食品原料での商品開発や新規顧客獲得による収益基盤の強化に取り組みました。また、高齢者向け事業を将来の柱へと育成するために、ドラッグストア向けを中心に『食事は楽し』などの商品ラインアップの拡充や営業体制の強化を行いました。

「天野実業株式会社」では、国内トップレベルのフリーズドライ技術を活かした販路拡大と機能性の高いフリーズドライ食品の認知度向上に取り組む、事業の成長を図りました。

流通販売事業は、量販店での取扱店舗数の増加に加え、『服部幸應推薦フリーズドライカレー』やフリーズドライ味噌汁のセット商品『美味しい瞬間』を発売したことなどにより、売上が拡大いたしました。通信販売事業も、積極的な広告宣伝活動により引き続き好調に推移いたしました。

以上の結果、食品事業につきましては、グループ各社がブランド強化に取り組んだことにより、売上高は前年同期比3.9%増の734億7千万円となりましたが、営業利益は、前年度の震災関連費用を特別損失に振り替えた影響などにより、前年同期比36.4%減の15億3百万円となりました。

国際事業

中国事業においては、中国国内向け『アサヒ』ブランドのビール生産機能の「北京?酒朝日有限公司」への集約化に取り組み、現地生産体制の強化による収益性の改善と品質の向上を図りました。

オセアニア事業においては、地域統括会社である「Asahi Holdings (Australia) Pty Ltd」を中心に、各社の間接部門の統合や共同調達などを実施し、酒類・飲料を横断した総合飲料事業としての収益基盤の強化を図りました。飲料事業では、子会社間における営業の一部統合や製造機能移管による最適な生産体制の構築など、シナジー創出に向けた基盤整備を行いました。また、酒類事業では、『アサヒスーパードライ』の販売機能を、豪州に続いてニュージーランドでも、グループ傘下の「Independent Liquor」グループへ移管いたしました。

東南アジア事業においては、マレーシアの清涼飲料会社「Permanis Sdn. Bhd.」が、競争環境が激化するなか、強みである営業力、商品力を活かし、積極的な投資により市場での地位向上を推進いたしました。また、インドネシア最大手の食品会社「PT Indofood CBP Sukses Makmur Tbk」と同国における清涼飲料事業の合併会社を設立し、今後も成長が見込まれる東南アジア地域の事業基盤の強化を図りました。

以上の結果、国際事業につきましては、既存連結子会社における売上拡大に加え、新規連結子会社の業績の上乗せ効果により、売上高は前年同期比79.6%増の1,103億5千8百万円となりました。営業損失は、中国事業の収益性の改善や新規連結子会社の業績貢献などがあったものの、新規連結子会社ののれん償却費の増加などにより、前年同期に比べ24億1千1百万円悪化し、62億円となりました。

その他の事業

その他の事業については、売上高は前年同期比12.1%増の196億4千3百万円となりました。営業利益は前年同期比4億1千2百万円悪化の7千2百万円となりました。

(2)資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて307億3千2百万円増加しております。これは、主に手元流動性の確保により現金及び預金が増加したことや当社の持分法適用関連会社である「康師傅飲品控股有限公司」と米国飲料大手の「PepsiCo, Inc.」との戦略的提携に伴い持分変動利益が発生したことなどにより投資有価証券が増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて153億2千7百万円減少しております。これは、借入金等の返済により金融債務（短期借入金、1年内償還予定の社債、コマーシャル・ペーパー、社債、長期借入金の合計）が減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ460億5千9百万円増加しております。これは、主に四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことや、豪ドルなどの為替相場の変動に伴い為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の41.9%から44.0%に増加しました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次の通りであります。

基本方針の内容

当社では、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者とは、当社グループの企業価値の源泉である“魅力ある商品づくり”“品質・ものづくりへのこだわり”“お客様へ感動をお届けする活動”や有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果、その他当社グループの企業価値を構成する事項等、さまざまな事項を適切に把握したうえで、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者でなければならぬと考えています。

当社は、当社株式について大量買付がなされる場合、当社の取締役会の賛同を得ずに行われる、いわゆる「敵対的買収」であっても、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、株式会社の支配権の移転を伴う買付提案に応じるかどうかの判断も、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えています。

しかしながら、株式の大量買付のなかには、その目的等から見て企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするものなど、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

このように当社株式の大量買付を行う者が、当社グループの企業価値の源泉を理解し、中長期的に確保し、向上させられる者でなければ、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることになります。

そこで当社は、このような当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益に反する大量買付に対し、それを抑止するための枠組みが必要不可欠であると考えます。

基本方針実現のための取組み

(a) 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社では、「自然のめぐみを、食の感動へ。『世界品質』で信頼される企業を目指す」という「長期ビジョン2015」を策定し、それを達成するために平成22年度から「中期経営計画2012」への取組みを開始いたしました。

「中期経営計画2012」では、企業価値向上のために、強みである“ものづくり力”を更に強化するとともに、製品、経営、人材など企業活動全ての品質を世界で通用するレベルに高め、既存事業の収益性向上を柱に、新たな成長軌道の確立を目指していきます。

また、同時にコーポレートブランドステートメントを「その感動を、わかちあう。」と制定し、グループ企業全体でお客様、社会にご提供する価値を明確にいたしました。

当社では、グループ経営理念に規定されている企業としての存在意義に基づき、コーポレートブランドステートメントで示したグループとしての提供価値を追求し、「長期ビジョン2015」の達成に向けた「中期経営計画2012」を着実に実行していくことが、当社グループとステークホルダーとの信頼関係を一層強固に築き上げ、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上につながるものと確信しております。

また、当社は、上記の諸施策の実行に際し、コーポレートガバナンスの更なる強化を図っていく予定です。

当社においては、平成12年3月30日に執行役員制度を導入したことにより、経営の意思決定と業務執行機能を分離し、業務の迅速な執行を図るとともに、取締役会における監督機能の強化に努めてまいりました。これに加え、社外役員の選任や、取締役会の下部組織であり社外取締役も委員となっている「指名委員会」及び「報酬委員会」の設置により、社外役員によるチェックが機能しやすい体制としております。

なお、株主の皆様に対する経営陣の責任をより一層明確にするため、平成19年3月27日開催の第83回定時

株主総会において、取締役の任期を2年から1年に短縮いたしました。

(b) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み<買収防衛策>

当社は、平成22年2月8日開催の取締役会において、で述べた会社支配に関する基本方針に照らし、「当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）」（以下「本プラン」という。）の更新を決議し、平成22年3月26日開催の第86回定時株主総会において、本プランの更新につき承認を得ております。

本プランは、以下のイ又はロに該当する買付等がなされる場合を適用対象とします。

イ．当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付等

ロ．当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

当社の株券等について買付等が行われる場合、当該買付等を行う買付者等には、本プランの手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した意向表明書の提出を求めます。その後、当社の定める書式により買付内容等の検討に必要な情報等を記載した買付説明書の提出を求めます。当社は、買付説明書の内容を経営陣から独立している社外取締役、社外監査役又は有識者のいずれかに該当する者で構成される独立委員会に提供し、その評価・検討を経るものとします。独立委員会は、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含む。）の助言を独自に得たうえ、買付内容の評価・検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、買付者等との交渉、株主の皆様に対する情報開示等を行います。独立委員会は、買付者等から提出された情報が不十分であると判断した場合には、直接又は間接に、買付者等に対し、適宜回答期限を定め、追加的に情報を提出するよう求めることがあります。この場合、買付者等においては、当該期限までに、かかる情報を追加的に提供していただきます。

独立委員会は、買付者等が本プランに定められた手続を遵守しなかった場合、その他買付者等の買付等の内容の検討の結果、当該買付等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合など、本プランに定める要件のいずれかに該当し、新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、当社取締役会に対して、本新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。なお、独立委員会は本プランに定める買付等が、イ．当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合、ロ．強圧的二段階買付等株主に株式の売却を事実上強要するおそれのある買付等である場合、ハ．買付等の条件が当社の本源的価値に鑑み、著しく不十分又は不適当な買付等である場合、の該当可能性が問題となっている場合には、本新株予約権無償割当ての実施に関して株主意思確認総会の承認を得るべき旨の留保を付することができるものとします。本新株予約権は、金1円を下限として当社株式の1株の時価の2分の1の金額を上限とする金額の範囲内において、当社取締役会が決定した金額を払い込むことにより行使し、普通株式最大1株を取得することができます。また、買付者等による権利行使が認められないという行使条件及び当社が買付者等以外の者から当社株式1株と引換えに新株予約権1個を取得することができる旨の取得条項が付されております。

当社取締役会は、独立委員会の上記勧告を最大限尊重して、新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する会社法上の機関としての決議を速やかに行うものとし、当該取締役会が株主の意思を確認することが適切と判断し株主意思確認総会を開催する場合には、当該株主意思確認総会の決議に従い、新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等に関する会社法上の機関としての決議を行うものとします。

本プランの有効期間は、平成22年3月26日開催の第86回定時株主総会の終結の時から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。

ただし、有効期間の満了前であっても、当社取締役会の決議によって本プランを廃止することができます。

す。また、本プランの有効期間中に独立委員会の承認を得たうえで、本プランを修正し、又は変更する場合があります。

なお、本プランにおいて、新株予約権の無償割当てが実施されていない場合、株主の皆様は直接具体的な影響が生じることはありません。他方、本プランが発動され、新株予約権の無償割当てが実施された場合、株主の皆様が新株予約権行使の手続を行わないと、その保有する株式が希釈化される場合があります（ただし、当社が当社株式を対価として新株予約権の取得を行った場合、株式の希釈化は生じません。）。

具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

(a)に記載した基本方針の実現に資する特別な取組みは、 に記載した基本方針に従い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に沿うものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

また、 (b)に記載した本プランも、以下の事項を考慮し織り込むことにより、基本方針に従い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に沿うものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えています。

(a)株主意思を重視するものであること

- イ．本プランは、平成22年3月26日開催の第86回定時株主総会において承認されたこと。
- ロ．有効期間が、上記定時株主総会の終結の時から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までに限定されていること。
- ハ．取締役の任期を1年としており、取締役の選任を通じて株主の皆様の意思を反映させることが可能であること。

(b)独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社取締役会は、本プランの更新にあたり、取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために、本プランの発動及び廃止等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として独立委員会を設置しました。独立委員会は、当社社外取締役、当社社外監査役、又は当社が独立委員会規則に定める要件を満たす有識者のいずれかに該当する者から、当社取締役会が選任した3名以上の委員により構成されています。

実際に当社に対して買付等がなされた場合には、独立委員会が上記規則に従い、当該買付等が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するか否かなどの実質的な判断（勧告）を行い、当社取締役会はその勧告を最大限尊重して、会社法上の決議を行うこととします。

このように、独立委員会によって、当社取締役会の恣意的行動を厳しく監視するとともに、その判断の概要については株主の皆様は情報開示をすることとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資する範囲で本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

(c)合理的な客観的要件の設定

本プランは、合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

(4)研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は、65億4千2百万円です。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

ん。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	972,305,309
計	972,305,309

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	483,585,862	483,585,862	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり権利内容に制限のない標準となる株式であります。 単元株式数は100株であります。
計	483,585,862	483,585,862		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年11月1日からこの四半期報告書提出日までの、新株予約権の行使による株式の発行数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	483,585	-	182,531	-	130,292

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 17,728,500		株主としての権利内容に制限のない標準となる株式
	(相互保有株式) 9,400		同上
完全議決権株式(その他)	465,079,400	4,650,794	同上
単元未満株式	768,562		
発行済株式総数	483,585,862		
総株主の議決権		4,650,794	

- (注) 1 「単元未満株式」の欄には、自己株式75株及び相互保有株式(今泉酒類販売株式会社)2株が含まれております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,800株(議決権の数28個)含まれております。
- 3 「完全議決権株式(自己株式等)」「完全議決権株式(その他)」「単元未満株式」は、全て普通株式であります。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アサヒグループホールディングス株式会社	東京都墨田区吾妻橋 一丁目23番1号	17,728,500	-	17,728,500	3.67
(相互保有株式) 今泉酒類販売株式会社	福岡県糟屋郡粕屋町 大字仲原1771番地の1	9,400	-	9,400	0.00
計		17,737,900	-	17,737,900	3.67

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

なお、当社は経営と執行を分離して取締役会の強化を図るとともに、業務執行における意思決定のスピードアップを図るため執行役員制度を導入しており、執行役員の異動は次のとおりであります。

退任執行役員

役名	氏名	退任年月日
執行役員	川下 博 史	平成24年 9 月19日
執行役員	角 田 哲 夫	平成24年 8 月31日

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,893	33,949
受取手形及び売掛金	1 279,596	1 265,669
商品及び製品	70,400	79,211
原材料及び貯蔵品	32,229	34,014
繰延税金資産	12,982	13,210
その他	48,369	54,016
貸倒引当金	3,326	4,575
流動資産合計	457,145	475,496
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	399,002	400,665
減価償却累計額	234,330	242,037
建物及び構築物（純額）	164,671	158,627
機械装置及び運搬具	502,091	513,011
減価償却累計額	378,636	395,322
機械装置及び運搬具（純額）	123,455	117,688
その他	148,801	158,478
減価償却累計額	82,101	89,188
その他（純額）	66,699	69,289
土地	176,054	176,336
建設仮勘定	5,354	8,168
有形固定資産合計	536,236	530,111
無形固定資産		
のれん	184,407	176,300
その他	49,880	58,690
無形固定資産合計	234,288	234,991
投資その他の資産		
投資有価証券	236,099	257,804
繰延税金資産	28,950	26,556
その他	42,842	39,311
貸倒引当金	5,655	3,631
投資その他の資産合計	302,237	320,040
固定資産合計	1,072,762	1,085,143
資産合計	1,529,907	1,560,639

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 104,527	1 111,205
短期借入金	136,679	132,567
1年内償還予定の社債	25,000	-
未払酒税	111,063	111,684
未払法人税等	25,018	17,829
預り金	18,931	14,757
コマーシャル・ペーパー	28,000	21,000
賞与引当金	3,051	8,129
その他	149,894	143,206
流動負債合計	602,166	560,379
固定負債		
社債	160,133	188,124
長期借入金	40,279	33,028
退職給付引当金	21,854	22,462
役員退職慰労引当金	372	192
資産除去債務	478	448
繰延税金負債	6,601	10,802
その他	54,222	55,342
固定負債合計	283,942	310,401
負債合計	886,108	870,781
純資産の部		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	150,788	150,666
利益剰余金	338,809	371,580
自己株式	28,295	27,852
株主資本合計	643,833	676,925
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,685	1,725
繰延ヘッジ損益	1	3
為替換算調整勘定	584	8,542
その他の包括利益累計額合計	2,100	10,271
少数株主持分	2,065	2,661
純資産合計	643,798	689,858
負債純資産合計	1,529,907	1,560,639

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1,066,116	1,139,190
売上原価	656,397	704,690
売上総利益	409,719	434,500
販売費及び一般管理費	332,934	366,819
営業利益	76,784	67,680
営業外収益		
受取利息	232	285
受取配当金	735	837
デリバティブ評価益	3,529	167
持分法による投資利益	5,995	7,370
その他	839	1,085
営業外収益合計	11,333	9,746
営業外費用		
支払利息	2,680	3,020
為替差損	895	681
その他	¹ 2,144	¹ 2,643
営業外費用合計	5,720	6,345
経常利益	82,396	71,080
特別利益		
固定資産売却益	191	314
投資有価証券売却益	2	12
関係会社株式売却益	4,596	201
貸倒引当金戻入額	1,521	-
持分変動利益	-	8,088
その他	-	525
特別利益合計	6,311	9,142
特別損失		
固定資産除売却損	1,609	1,986
投資有価証券評価損	1,730	1,132
関係会社整理損	18	-
工場再編関連損失	² 713	² 1,459
震災関連費用	³ 16,185	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	460	-
事業統合関連費用	⁴ 3,659	⁴ 3,255
その他	1,850	486
特別損失合計	26,227	8,321
税金等調整前四半期純利益	62,480	71,902
法人税等	26,095	25,979
少数株主損益調整前四半期純利益	36,385	45,922
少数株主利益	442	336
四半期純利益	35,942	45,586

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	36,385	45,922
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,555	4,411
繰延ヘッジ損益	695	2
為替換算調整勘定	17,492	6,277
持分法適用会社に対する持分相当額	842	1,257
その他の包括利益合計	20,586	11,947
四半期包括利益	15,798	57,870
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,689	57,957
少数株主に係る四半期包括利益	890	87

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	<p>第1四半期連結会計期間から、Mountain H20 Pty Ltdにつきましては株式を取得したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>当第3四半期連結会計期間から、PT Asahi Indofood Beverage Makmurにつきましては新たに設立したため、連結の範囲に含めております。</p>
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	<p>第1四半期連結会計期間から、康師傅飲品控股有限公司の關係会社4社につきましては新たに設立したため、康師傅飲品控股有限公司の關係会社23社及びMountain H20 Pty Ltdの關係会社1社につきましては持分を取得したため、上海嘉祐投資管理有限公司につきましては重要性が増したため、持分法適用關連会社の範囲に含めております。</p> <p>また、康師傅飲品控股有限公司の關係会社1社につきましては清算したため、持分法適用關連会社の範囲から除外しております。</p> <p>第2四半期連結会計期間から、康師傅飲品控股有限公司の關係会社3社につきましては新たに設立したため、持分法適用關連会社の範囲に含めております。</p> <p>当第3四半期連結会計期間から、康師傅飲品控股有限公司の關係会社4社及びPT Indofood Asahi Sukses Beverageにつきましては新たに設立したため、持分法適用關連会社の範囲に含めております。</p>
(追加情報)	<p>持分法の適用に関する事項</p> <p>康師傅飲品控股有限公司及びその關係会社は、従来、同社の事業年度である12月決算数値をもって持分法投資損益を算出しておりましたが、業績に関する開示及び意思決定の迅速化を図るため、当連結会計年度から9月30日現在で実施する仮決算に基づく財務諸表を基礎として持分法投資損益を算出する方法に変更いたしました。</p> <p>ただし、前連結会計年度において、連結決算日12月31日現在の同社の財務諸表を基礎として持分投資損益を取り込んでいることから、当連結会計年度においては同社の9ヶ月間の決算数値を基礎とした持分法投資損益を取り込むこととなります。</p> <p>なお、これに伴い、第1四半期連結会計期間においては、同社の持分法投資損益の取り込みは行っておりません。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年9月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日至平成24年9月30日)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)																								
1	<p>期末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理をしております。従って当連結会計年度末日は金融機関の休業日のため、次のとおり期末日満期手形が期末残高に含まれております。</p> <table> <tr> <td>受取手形</td> <td>1,067百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手形</td> <td>154百万円</td> </tr> </table>	受取手形	1,067百万円	支払手形	154百万円	<p>四半期連結会計期間末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理をしております。従って当第3四半期連結会計期間末日は金融機関の休業日のため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。</p> <table> <tr> <td>受取手形</td> <td>299百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手形</td> <td>133百万円</td> </tr> </table>	受取手形	299百万円	支払手形	133百万円																
受取手形	1,067百万円																									
支払手形	154百万円																									
受取手形	299百万円																									
支払手形	133百万円																									
2	<p>偶発債務 保証債務 銀行借入に対する保証債務等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被保証者</th> <th>保証金額 (百万円)</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従業員</td> <td>236</td> <td>銀行借入</td> </tr> <tr> <td>その他3件</td> <td>350</td> <td>銀行借入等</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>586</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	被保証者	保証金額 (百万円)	摘要	従業員	236	銀行借入	その他3件	350	銀行借入等	合計	586		<p>偶発債務 保証債務 銀行借入に対する保証債務等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>被保証者</th> <th>保証金額 (百万円)</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>従業員</td> <td>184</td> <td>銀行借入</td> </tr> <tr> <td>その他3件</td> <td>469</td> <td>銀行借入等</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>653</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	被保証者	保証金額 (百万円)	摘要	従業員	184	銀行借入	その他3件	469	銀行借入等	合計	653	
被保証者	保証金額 (百万円)	摘要																								
従業員	236	銀行借入																								
その他3件	350	銀行借入等																								
合計	586																									
被保証者	保証金額 (百万円)	摘要																								
従業員	184	銀行借入																								
その他3件	469	銀行借入等																								
合計	653																									

(四半期連結損益計算書関係)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
1	<p>営業外費用その他の中に、持分法適用関連会社の持株会社で発生しているのれん償却額318百万円が含まれております。</p>	同左
2	<p>国際事業における収益構造改革に向けた工場再編成による損失であります。</p>	<p>東日本大震災後の最適生産体制の再検討により決定した、酒類事業におけるアサヒビール(株)西宮工場の閉鎖及び生産拠点の再編による費用であります。</p>
3	<p>平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う費用を計上しております。</p>	
4	<p>企業結合など事業の拡大・統合に伴い発生した費用であります。</p>	同左

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
減価償却費	43,849百万円	43,101百万円
のれんの償却額	4,121 "	8,216 "

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年3月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	5,817	12.50	平成22年12月31日	平成23年3月28日
平成23年8月2日 取締役会	普通株式	利益剰余金	5,352	11.50	平成23年6月30日	平成23年9月1日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年3月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	6,286	13.50	平成23年12月31日	平成24年3月28日
平成24年8月2日 取締役会	普通株式	利益剰余金	6,522	14.00	平成24年6月30日	平成24年8月31日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	669,909	246,476	70,745	61,456	17,528	1,066,116	-	1,066,116
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,629	3,707	1,542	9	34,876	56,765	56,765	-
計	686,539	250,184	72,287	61,465	52,404	1,122,881	56,765	1,066,116
セグメント利益又は損 失()	70,130	11,328	2,362	3,788	484	80,518	3,734	76,784

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおりま
す。

2. セグメント利益又は損失の調整額 3,734百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
3,726百万円、セグメント間取引消去等 8百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会
社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	670,784	264,933	73,470	110,358	19,643	1,139,190	-	1,139,190
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,314	3,380	1,413	5	34,689	55,802	55,802	-
計	687,098	268,314	74,884	110,363	54,332	1,194,993	55,802	1,139,190
セグメント利益又は損 失()	76,622	4,898	1,503	6,200	72	76,896	9,215	67,680

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおりま
す。

2. セグメント利益又は損失の調整額 9,215百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用
9,185百万円、セグメント間取引消去等 29百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会
社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	77円22銭	97円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	35,942	45,586
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	35,942	45,586
普通株式の期中平均株式数(千株)	465,462	465,818
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	77円17銭	97円80銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(千株)	283	310
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

平成24年8月2日開催の取締役会において、平成24年6月30日の最終の株主名簿に記録された株主に
対し、次のとおり第2四半期配当を行うことを決議いたしました。

第2四半期配当金の総額 6,522,002,018円

1株あたり第2四半期配当金 14円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年8月31日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月13日

アサヒグループホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒 井 弘 行

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 弘 隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 黒 之 彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアサヒグループホールディングス株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アサヒグループホールディングス株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。